りで政党名を消すとよほど関心のある人でないと区別がつかない．これでは浮動票が増えるのが当然である．

日本の政治は，講和以来10年ごとに行なわれた安保延長をめぐって社会的，経済的環境をゆさぶってきた．今後当面する80年の安保をめぐっての政治の展開を注目する必要がある．一般的には左方向への傾斜が見込まれているが，資源問題・国際環境，および経済・社会環境からの制約はむしろ右にシフトし，ネオナショナリズムの展開がみられるようにも思われる．

む す び

以上は主として80年代に企業が当面するであろう外部環境を予測する場合の視点と，これを進める場合の考え方，手法を説明し，これの実際例として1つのシナリオ・ライティングを試みた．実際にいろいろな長期計画を策定するための基盤資料としては，おのおのの企業が当面する産業分野について深く掘り下げ，あるいは加工する必要がある．しかしマクロ的には整合性をもたせるべくつとめ，多くのヒントを内蔵させていると考えている．もちろん，この環境相互間の関連性についてダイナミック・プログラミング手法の適用とか連関表の作成などによる計量的因果関係の把握も有効である．これらについては別の機会にゆずりたい．

（本レポートは，昭和51年春季学会のペーパー・フェアで発表したものである）

参 考 文 献

1) 勝部眞長『氷川清話』広池学園　昭和47年．
マックス・ウエーバー，西島芳二(訳)『職業としての政治』角川文庫，昭和34年．
2) E・ダンケル等，田崎勉訳．『GE社の企業環境予測』産能短大，1971．
3) 飽戸弘・富永健一『変動期の日本社会』NHK市民大学叢書26，昭和47年．
4) ロイ・ハロッド，清水幾太郎訳『社会科学とは何か』岩波新書，昭和50年．
5) アリゴ・レーピ，上原一男訳『経済学はどこへ行く』日経新聞社，昭和50年．
6) D・ガボール，林雄二郎訳『成熟社会』講談社，昭和48年．
7) 片野憲二『情報源ハンドブック』ビジネス教育出版社，昭和51年．
8) 史料調査会編『太平洋戦争と富岡定俊』軍事研究社昭和46年．
9) 井上赳夫『21世紀の社会予測』日本能率協会，昭和48年．
10) 中村孝士『経済予測の確率』毎日新聞，昭和50年．
11) 只野文哉『ソフト・テクノロジー』丸善，昭和47年．
12) ドール&フィッシャー他，福島康人訳『長期計画の考え方と手法』ダイヤモンド社，昭和47年．

みなと・しんぺい　1933年生
阪大工学部卒　武田薬品技術企画部

第8回 IFORS 国際会議論文選出について

1978年6月19日から23日までカナダのトロント市で開催される第8回 IFORS 国際会議に日本から選出する論文はいまのところ2編わりあてられております．会員の皆さまから寄せられた約10編の応募論文アブストラクトについて，理事会より委嘱を受けた選出委員が検討いたしました結果，つぎの論文をわが国からのcontributionとすることに決定いたしました．

（IFORS 日本代表　出居茂）

T. Matsuzaki : Kinki Intergrated Regional Development Program……Towards a Systems Development for an Extended Amenity Concept.

H. Tokuyama : On-Line Scheduling for the Transportation of Raw Materials in the Yards of an Iron Works.

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．